

令和3年度 原子力被災自治体における 住民意向調査 調査結果（概要）

■調査の概要

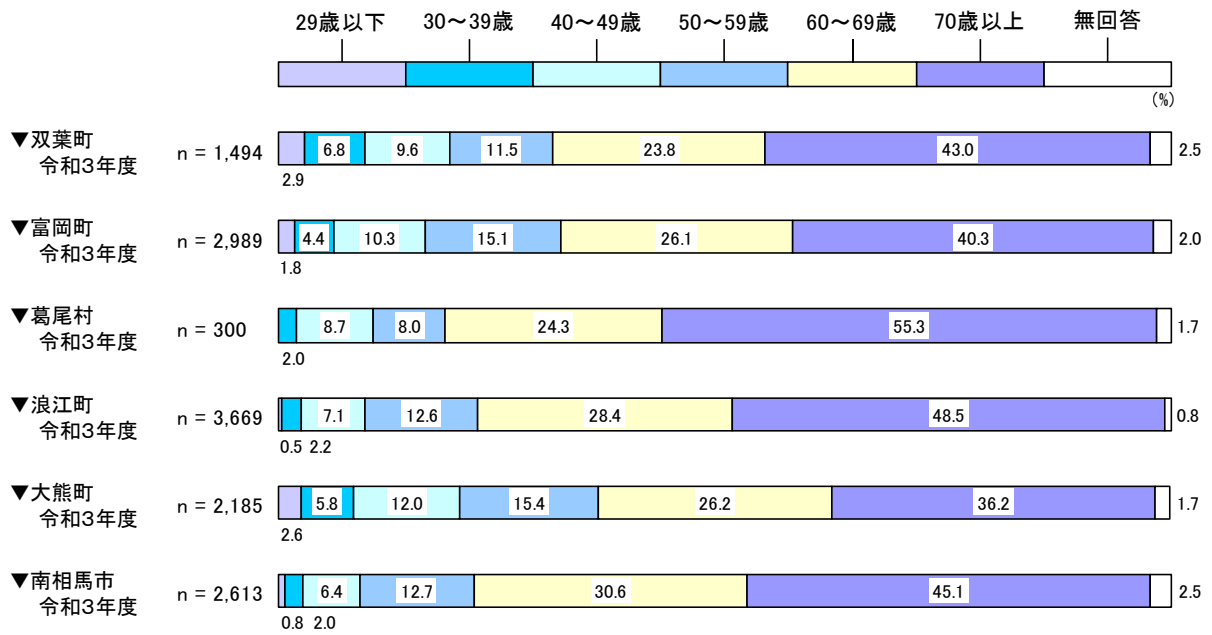
1. 調査目的：福島県内の原子力災害による避難住民の早期帰還・定住に向けた環境整備等のための基礎情報収集を目的に住民意向調査を実施
2. 調査主体：復興庁、福島県、各市町村が共同で実施
3. 実施市町村：双葉町、富岡町、葛尾村、浪江町、大熊町、南相馬市の6市町村
4. 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）
5. 調査対象：各世帯の代表者
6. 主な調査項目：帰還に関する意向、帰還の判断に必要な条件など

■調査対象となった各市町村の調査実施状況は以下のとおり。

	対象町	対象地域	記名・無記名	対象世帯数	回答世帯数	有効回収率	調査実施期間
1	双葉町	全域	記名	3,126	1,494	47.8% (49.2%)	令和3年 8月23日～9月6日
2	富岡町	全域	無記名	6,248	2,989	47.8% (48.2%)	令和3年 8月30日～9月13日
3	葛尾村	全域	記名	491	300	61.1% (57.3%)	令和3年 9月6日～9月21日
4	浪江町	全域	無記名	7,395	3,669	49.6% (58.6%)	令和3年 10月12日～10月26日
5	大熊町	全域	記名	5,135	2,185	42.6% (49.2%)	令和3年 11月1日～11月15日
6	南相馬市	小高区 原町区の一部	記名	4,000	2,613	65.3% (60.7%)	令和3年 11月1日～11月15日

※双葉町・富岡町・浪江町・大熊町の（ ）内は令和2年度
 ※葛尾村・南相馬市の（ ）内は令和元年度

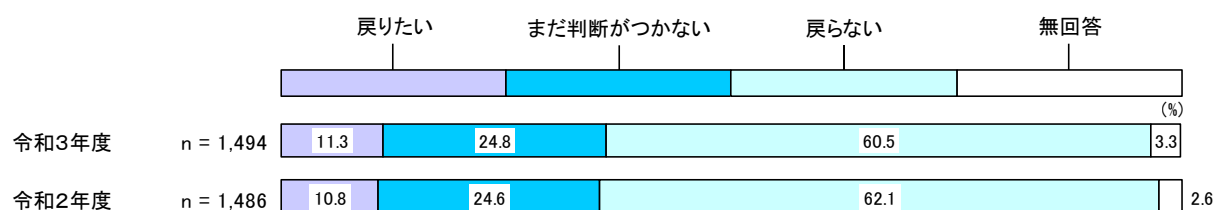
回答者の属性（年齢）



帰還意向

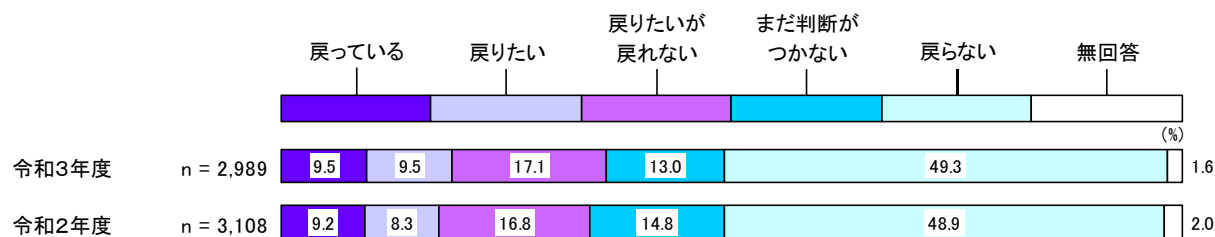
○令和3年度の調査結果によると、双葉町、富岡町、浪江町、大熊町では「戻りたい」と回答した方の割合がわずかに増加している。

<双葉町>



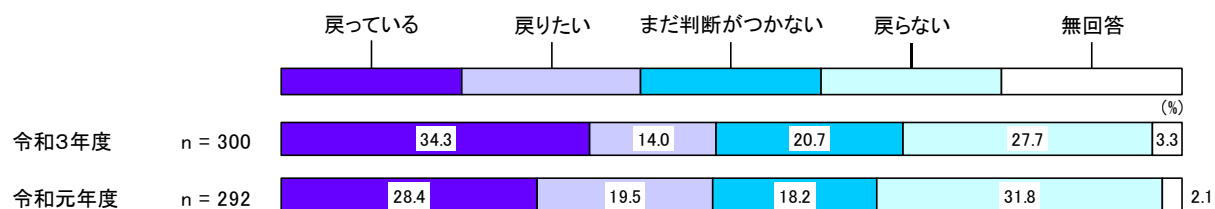
<富岡町>

※平成29年4月1日に避難指示の一部解除



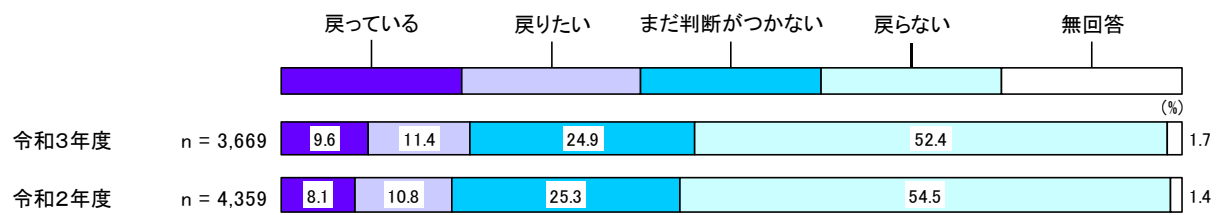
<葛尾村>

※平成28年6月12日に避難指示の一部解除



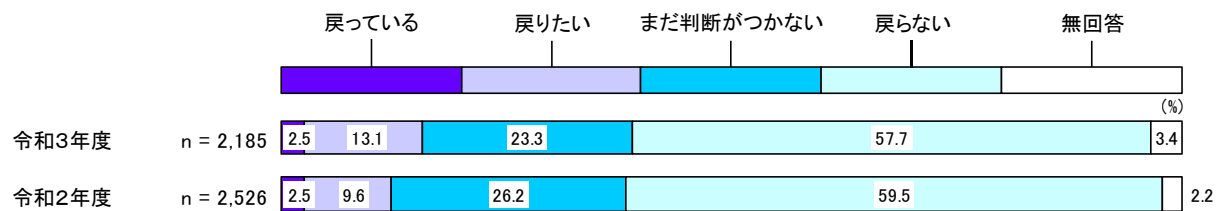
<浪江町>

※平成 29 年 3 月 31 日に避難指示の一部解除



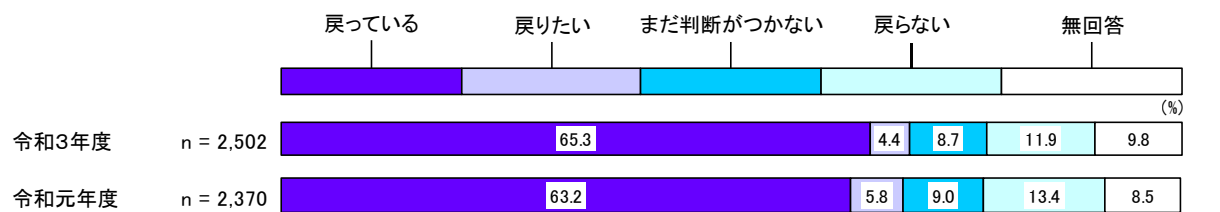
<大熊町>

※平成 31 年 4 月 10 日に避難指示の一部解除



<南相馬市>

※平成 28 年 7 月 12 日に避難指示の一部解除



※震災発生当時、避難指示区域に指定された地域にお住まいの世帯が対象

帰還を決めた理由

○帰還意向において「戻っている」と回答した方が帰還を決めた理由として、「気持ちが安らぐこと」などが上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
富岡町 令和3年度 n=284	気持ちが安らぐこと 54.9%	医療機関が開院したこと 42.3%	水道水等、生活用水の 安全性が確認されたこと 37.7%	放射線量が低減された こと 36.6%	役場機能が再開したこと 34.5%
葛尾村 令和3年度 n=103	葛尾村での生活は気持ちが 安らぐから 76.7%	農地等の管理・耕作のため 52.4%	放射線量が低減される など、不安が少しずつ 払拭されてきたから 27.2%	友人・知人等が村内に 多く居住しているから 18.4%	勤務先が近いから 12.6%
浪江町 令和3年度 n=353	浪江での生活は気持ちが 安らぐから 66.9%	放射線量が低減される など、不安が少しずつ 払拭されてきたから 25.5%	勤務先が近いから 17.6%	見守り隊のパトロール などにより安心して生活 できると判断したから 13.9%	公営住宅・居住環境が 整備されたから 11.6%
大熊町 令和3年度 n=55	気持ちが安らぐこと 40.0%	役場機能が再開したこと 38.2%	自宅や公営住宅等が 整備されたこと 23.6%	放射線量が低減された こと 20.0%	自宅周辺の除染・避難指示 解除が実施される見込みが あること、等 14.5%

■大熊町は、「自宅周辺の除染・避難指示解除が実施される見込みがあること」「水道水等、生活用水の安全性が確認されたこと」の2項目が同率で5位となっている

< (参考) 前回調査結果 >

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
富岡町 令和2年度 n=286	気持ちが安らぐこと 52.4%	水道水等、生活用水の 安全性が確認されたこと 38.8%	放射線量が低減された こと 35.0%	役場機能が再開したこと 35.0%	商業施設が再開したこと 32.2%
浪江町 令和2年度 n=352	浪江での生活は気持ちが 安らぐから 68.8%	放射線量が低減される など、不安が少しずつ 払拭されてきたから 27.8%	勤務先が近いから 16.5%	見守り隊のパトロールなど により安心して生活できると 判断したから 13.6%	公営住宅・居住環境が 整備されたから 11.1%
大熊町 令和2年度 n=62	役場機能が再開したこと 43.5%	気持ちが安らぐこと 37.1%	自宅や公営住宅等が 整備されたこと 32.3%	放射線量が低減された こと 25.8%	水道水等、生活用水の 安全性が確認されたこと 22.6%

■富岡町は、「放射線量が低減されたこと」「役場機能が再開したこと」の2項目が同率であるが、グラフの表記上3～4位に分けて表示している

帰還を判断するために必要な条件

○帰還意向において「まだ判断がつかない」と回答した方が、帰還を判断するために必要な条件として、「医療機関の拡充等」「商業施設の充実」「住民の帰還状況」などが上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 令和3年度 n=371	医療・介護福祉施設の再開や新設 48.2%	商業施設の再開や新設 28.8%	上下水道等ライフラインの整備状況に関する情報 25.6%	双葉町の今後の姿 15.9%	JR双葉駅西側に整備する新たな公営住宅に関する情報 14.6%
富岡町 令和3年度 n=389	医療機関(診療科)の拡充 54.0%	商業施設の充実 45.5%	介護・福祉施設の充実 33.2%	どの程度の住民が戻るかの状況 32.4%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 26.2%
葛尾村 令和3年度 n=62	医療機関(診療科)の拡充 45.2%	介護・福祉施設の充実 29.0%	商業施設の充実 24.2%	公共交通機関の充実 22.6%	どの程度の住民が戻るかの状況 21.0%
浪江町 令和3年度 n=914	医療・介護の復旧時期の目途 55.1%	どの程度の住民が戻るかの状況 35.7%	商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途 34.7%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 26.4%	原子力発電所に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 26.4%
大熊町 令和3年度 n=509	病院、道路、公共交通などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途 67.0%	どの程度の住民が戻るかの状況 42.4%	住宅確保への支援に関する情報 41.8%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 39.9%	帰還困難区域の避難指示解除となる時期の目安に関する情報 39.1%
南相馬市 令和3年度 n=217	医療機関(診療科)の状況 53.5%	介護・福祉施設の状況 38.7%	商業施設の状況 35.9%	原子力発電所の安全性に関する情報(廃炉作業の状況) 31.8%	公共交通機関の状況 24.4%

■浪江町は、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」「原子力発電所に関する情報(事故収束や廃炉の状況)」の2項目が同率であるが、グラフの表記上4～5位に分けて表示している

< (参考) 前回調査結果 >

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 令和2年度 n=365	医療・介護福祉施設の再開や新設 41.9%	商業施設の再開や新設 29.3%	住宅の修繕や建て替え、住宅確保の支援 28.8%	上下水道等ライフラインの整備状況に関する情報 20.3%	被ばく線量対策(除染含む) 15.9%
富岡町 令和2年度 n=459	医療機関(診療科)の拡充 60.6%	商業施設の充実 44.9%	介護・福祉施設の充実 37.7%	どの程度の住民が戻るかの状況 31.8%	防犯・防火対策の強化 26.8%
葛尾村 令和元年度 n=53	医療機関(診療科)の拡充 47.2%	有害鳥獣対策の強化 32.1%	介護・福祉施設の充実 28.3%	どの程度の住民が戻るかの状況 20.8%	働く場の確保の見通し 20.8%
浪江町 令和2年度 n=1,103	医療・介護の復旧時期の目途 56.8%	どの程度の住民が戻るかの状況 37.9%	商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途 35.5%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 28.0%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 26.6%
大熊町 令和2年度 n=661	病院、道路、公共交通などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途 72.9%	帰還困難区域の避難指示解除となる時期の目安に関する情報 43.1%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 41.6%	どの程度の住民が戻るかの状況 40.2%	住宅確保への支援に関する情報 37.8%
南相馬市 令和元年度 n=214	医療機関(診療科)の状況 63.6%	介護・福祉施設の状況 43.5%	商業施設の状況 40.2%	原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況) 36.0%	鉄道等公共交通機関の状況、等 29.0%

■葛尾村は、「どの程度の住民が戻るかの状況」「働く場の確保の見通し」の2項目が同率であるが、グラフの表記上4～5位に分けて表示している

■南相馬市は、「鉄道等公共交通機関の状況」「放射線量の低下の見通し、除染成果の状況」「どの程度の住民が戻るかの状況」の3項目が同率で5位となっている

帰還しないと決めている理由

○帰還意向において「戻らない」と回答した方が、帰還しないと決めている理由として、「すでに生活基盤ができているから」「医療環境に不安があるから」「避難先の方が、生活利便性が高いから」などが上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 令和3年度 n=904	避難先で自宅を購入 または建築し、将来も継続 的に居住する予定だから 56.6%	医療環境に不安が あるから 45.7%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 39.5%	生活に必要な商店などが 元に戻りそうにないから 34.1%	水道水などの生活用水の 安全性に不安があるから 31.0%
富岡町 令和3年度 n=1,474	すでに生活基盤が できているから 66.1%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 40.2%	医療環境に不安が あるから 29.9%	原子力発電所の安全性に 不安があるから 23.6%	生活に必要な商業施設 などが不足しているから 23.1%
葛尾村 令和3年度 n=83	避難先の方が、 生活利便性が高いから 45.8%	医療環境に不安が あるから 37.3%	すでに生活基盤が できているから 36.1%	葛尾村外への 移動交通が不便だから 28.9%	高齢者・要介護者のいる 世帯なので生活が 不安だから 25.3%
浪江町 令和3年度 n=1,921	すでに生活基盤が できているから 49.8%	元の住家を解体しており、 戻る家がないから 46.0%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 38.4%	医療環境に不安が あるから 36.5%	原子力発電所の安全性に 不安があるから 26.1%
大熊町 令和3年度 n=1,261	すでに生活基盤が できているから 60.7%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 42.0%	医療環境に不安が あるから 37.7%	生活に必要な商業施設 などが不足しているから 32.9%	家が汚損・劣化し、 住める状況ではないから 25.0%
南相馬市 令和3年度 n=298	すでに恒久的住宅を 取得したから 55.4%	すでに生活基盤が できているから 53.7%	医療環境に不安が あるから 41.6%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 40.9%	原子力発電所の安全性 (廃炉作業の難航)に 不安があるから 34.6%

< (参考) 前回調査結果 >

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 令和2年度 n=923	避難先で自宅を購入 または建築し、将来も継続 的に居住する予定だから 56.8%	医療環境に不安が あるから 51.1%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 39.8%	生活に必要な商業施設 などが元に戻りそうに ないから 37.6%	水道水などの生活用水の 安全性に不安があるから 33.9%
富岡町 令和2年度 n=1,521	すでに生活基盤が できているから 60.1%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 38.7%	医療環境に不安が あるから 32.5%	原子力発電所の安全性に 不安があるから 25.2%	生活に必要な商業施設 などが不足しているから 24.8%
葛尾村 令和元年度 n=93	医療環境に不安があるから 50.5%	すでに生活基盤が できているから 46.2%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 40.9%	高齢者・要介護者のいる 世帯なので生活が 不安だから 34.4%	葛尾村外への移動交通が 不便だから 29.0%
浪江町 令和2年度 n=2,375	すでに生活基盤が できているから 53.9%	医療環境に不安があるから 42.3%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 40.1%	原子力発電所の安全性に 不安があるから 28.7%	生活に必要な商業施設 などが不足しているから 28.3%
大熊町 令和2年度 n=1,504	すでに生活基盤が できているから 59.1%	医療環境に不安が あるから 43.5%	避難先の方が 生活利便性が高いから 42.0%	生活に必要な商業施設 などが不足しているから 39.0%	家が汚損・劣化し、住める 状況ではないから 30.5%
南相馬市 令和元年度 n=318	すでに恒久的住宅を 取得したから 48.1%	すでに生活基盤が できているから 44.7%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 40.6%	医療環境に不安があるから 38.4%	原子力発電所の安全性 (事故収束や廃炉の状況) に不安があるから 36.8%